

---

# デジモンストーリーライトファンクとナイトクロウの絆X

みづごろう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

デジモンストーリーライトファンクとナイトクロウの絆X

### 【Nコード】

N6730U

### 【作者名】

みづじろじ

### 【あらすじ】

ヒカリたちはナイトクロウとの対抗戦が幕を上げたそんなときノーマルテイマー戦が終わり明日、とんでもない事件が舞い込む

人物紹介〜ライトファンク編〜（前書き）

みづ「ついに始まったね」

ヒカリ「そうね」

サヨ「これから忙しくなりそうね」

みづ・ヒカリ「うんうん」

みづ「といっても一年前だけど自然ワールド編で終わりだけどね」

ヒカリ「え？」

サヨ「そうなの・・・？」

みづ「まあね」

サヨ・ヒカリ「そんなー」

みづ「人物紹介〜ライトファンク編〜スタート」

## 人物紹介〜ライトファンク編〜

太陽ヒカリ

ノーマルテイマーで明るく元気な中学1年生

殺し屋の娘だが周りのみんなに支えられて生きてこられた

テリアモンが大好き

パートナーデジモンは今のところ

ラピッドモン

エンジエウーモン

ルカモン

ホームデジモンはテイルモン

太陽コウ

ヒカリのいここでもあつてヒカリの幼馴染

ノーマルテイマーで熱血で周りのみんなをいつも気にかけてくる中

学一年生

ヒカリのことが好きだがヒカリにはその思いは全然届いてない

パートナーデジモンは今のところ

ファイラモン

レツパモン

ライズグレイモン

ホームデジモンはアグモン

太陽ソング

ヒカリの弟でヒカリのことを尊敬してる

ノーマルテイマーでいつも周りの人たちを巻き込むトラブルメーカー

ーで落ち着きがない

周りの人たちを巻き込むたびヒカリやグレア隊長に怒られてる

パートナーデジモンは

メガログラウモン

スーパースターモン

イツカクモン

ホームデジモンはパタモン

パルサ

ノーマルテイマーでヒカリの親友

いつものんきで中間達にいじられてる

コマチ

ノーマルテイマーでヒカリの親友

しっかり者で頭もいい

トンペイ

ノーマルテイマーでチータ、ケンパといつも一緒にいる

素直だがいつも三人で勝手な行動をするたびにグレア隊長に怒られている

チータ

ノーマルテイマーでトンペイ、ケンパといつも一緒にいる

素直じゃなくていわゆるツンデレ

ケンパ

ノーマルテイマーでトンペイ、チータといつも一緒にいる

礼儀正しくいい子だが二人にいつも乗せられてしまう

ガオウ

ブロンズテイマーでいつもライラと一緒にいる

とても力持ちで後輩からも頼られてる、たまに暴走してはライラに止められている

ライラ

ブロンズタイマーでいつもガオウと一緒にいる

けっこう感が鋭いけどその感はあるまじ信じられていない

ギデオン

シルバータイマーでしっかり者

面倒見がよくやさしいお兄さんタイプ

リットン

ゴールドタイマー

しっかり者の姉御タイプ

グレア

ライトファングの隊長でヒカリとソングの親代わり

厳しいところもあるけど優しい

パートナーデジモンは

オファニモン

ホームデジモンはクダモン

人物紹介〜ライトファンク編〜（後書き）

みづ「どうだった？」

パルサ「始めまして、僕パルサ」

ヒカリ「あ、パルサ」

コマチ「私もいるわよ」

ヒカリ「コマチも」

みづ「うれしそうね・・・」

ヒカリ「だって嬉しいんだもん」

みづ「ま、いいけど。そんなことより次回は」

パルサ「次回といっても・・・」

コマチ「人物紹介だけなんだけどね・・・」

ヒカリ「次回予告はみづのコーナーなんだから・・・私たちはその

トークをするのよ」

みづ「ここまでできてまたコーナーを乗っ取られた・・・（泣）」

ヒカリ「ほら、泣いちゃったじゃないまあ、とりあえず」

みづ以外「次回の人物紹介もみてね」

## 人物紹介〜ナイトクロウ編〜（前書き）

サヨ「今回は、私達、ナイトクロウの出番ね」

みづ「出番といってもただの人物紹介なんだけどね」

サヨ「た、確かに」

ヒカリ「ま、次回から本格始動なんだから別にいいんじゃない？」

コウ「そうそう」

ヒカリ「コウはお呼びじゃないっつーの」

コウ「ガーン」

みづ「人物紹介〜ナイトクロウ編〜どうぞ」

## 人物紹介〜ナイトクロウ編〜

月野サヨ

ノーマルテイマーで積極的

ロップモンが大好き

薬を研究していてホームデジモンのファスコモンを実験台にしている  
パートナーデジモンは

レキシモン

ライラモン

アンティラモン

ホームデジモンはファスコモン

月野セイヤ

ノーマルテイマーでせっかち

サヨのいところでもあつて幼馴染

コウの双子の弟でもある

パートナーデジモンは

マツハガオガモン

クロックモン

キメラモン

ホームデジモンはブラックアゲモン

月野リズム

ノーマルテイマーで歌うのが大好き

サヨの妹でソングの双子の姉

とても素直でいいこ

パートナーデジモンは

ルークチェスモン

フライモン

サングウルモン

ホームデジモンはベアモン

ニュートン

ノーマルテイマーでナイトクロウのいじられ役  
しょっちゅうドロシーにいじられてる

ドロシー

ノーマルテイマーでしっかり者のお姉さん  
しょっちゅうニュートンに言いたい放題

パンチ

ノーマルテイマーで自分が勇敢だと思っている  
いつも勝手なことをしてカオスデュークモンに怒られてる

ガッツ

ノーマルテイマーで素直じゃないが寂しがりや  
いつも三人で勝手なことをして怒られている

パロネ

ノーマルテイマーですこしおっちょこちよい  
パンチ、ガッツには勇敢だと思われている

スケキヨ

ブロンズテイマーですこしナルシストがはいつてる  
いつもカクミと一緒に行動している

カクミ

ブロンズテイマーでギャル的な口調  
いつもスケキヨと一緒に行動している

スパイク

シルバーティマーで後輩達をまとめあげている  
いつも影で努力を欠かさない

ライゴウ

ゴールドティマーでジュリア隊長に頼りにされている  
ジュリア隊長が出張などの留守な場合はライゴウが隊長代わりを任  
されている

ジュリア

ナイトクロウの隊長

いつもナイトクロウの心配をしている

パートナーデジモンは

カオスデュークモン

ホームデジモンはインプモン

人物紹介〜ナイトクロウ編〜（後書き）

みづ「ふう・・・」

サヨ「大丈夫？」

みづ「平気平気」

ドロシー「本当に？」

みづ「大丈夫」

ニュートン「ま、本人が大丈夫って言うんなら大丈夫なんじゃない？」

ドロシー「あんたは黙ってて!!」

ニュートン「はい・・・」

サヨ「あはは」

みづ「そんなことより次回のお話は対抗戦前夜のライトファングでお送りします」

サヨ「私達の出番は？」

ドロシー「ないんじゃない？」

サヨ・ニュートン「とほほ・・・」

みづ「次回もお楽しみに」

0・5話 プロローグ(ライトファンク編)(前書き)

みづ「ついに始まったプロローグ」

ヒカリ「やった」

コウ「楽しみだな」

ソング「本当本当」

ヒカリ「私もみづごろうも忙しくなりそうね」

コウ「自慢か？」

ソング「なあ、みづごろう、俺達もパラレルフロンティアに出してくれよ」

みづ「もちのろんだよ」

コウ「ソング「やった」

ヒカリ「七大魔王編が終わったらレギュラーになれる・・・と思う」

コウ「ソング「・・・」

みづ「そんな二人はほっといて」

ヒカリ・みづ「本編スタート」

0・5話 プロローグ(ライトファンク編)

ヒカリ「はあああああああ」

コウ「いきなりため息かよ・・・」

ソング「姉ちゃんはおがり症だもんな」

パルサ「しょうがないよ」

コマチ「こんなに大掛かりな試合だもん、緊張するなって言うほうが無理なんじゃない？」

???「ヒカリ、モーマンタイ、僕達がいるじゃないか」

声の主はラピッドモンだった

???「そうよ、私たちがいるわ」

ヒカリ「エンジェウーモン・・・」

???「それとも、私たちがそんなに頼りないですか？」

ヒカリ「ルカモン・・・そうよね・・・あなた達がいるもんね」

ヒカリのデジモン達「そっだよ(よ)」

コマチ「ヒカリ達はライトファンクきつてのルーキーなんだから自信もって」

パルサ「ま、僕達より強いのは確實だしね」

ヒカリ「そうね、こんなところであがってる場合じゃないもんね」

コウ「じゃあ、今年のノーマルトーナメントは絶対に俺達の誰かが優勝して」

ソング「次のブロンズトーナメントへの流れをライトファングに持つていくぞ」

みんな「えいえいおー!!!!!!」

グレア「こらー、そんなところでさぼってるんじゃない!!!!」

みんな「はーい……(汗)」

0・5話 プロローグ(ライトファンク編)(後書き)

みづ「どうだった？」

ヒカリ「短いね・・・」

コウ「プロローグなんだから仕方ねーな」

みづ「そうだよ・・・」

ソング「プロローグは短いほうがちょうどいいんだ」

みづ「そんなことより次回のお話は」

みんな(前から思ってたけど次回予告の前書きってケ○ロ○曹のパクリじゃない?)

みづ「ナイトクロウのプロローグ」

ヒカリ「私たちがしてる間その頃ナイトクロウはってやつ？」

コウ「そんなところだろ」

みんな「次回もお楽しみに!!」

0・9話 プロローグ（ナイトクロウ編）（前書き）

みづ「今回はナイトクロウ編だよ」

サヨ「やった」

みづ「今回は後書きに大事なお知らせがあるから最後まで見てってね」

セイヤ「ああ」

リズム「もちろんよ」

サヨ「やっぱりあのこと？」

みづ「うん、この小説ではまだ発表してないからカタカナのままだね」

サヨ「うん、分かった」

みんな「??」

サヨ、みづ「と、いうわけで始まるよ」

## 0・9話 プロローグ(ナイトクロウ編)

ジュリア「明日はいよいよ対抗戦です、ナイトクロウがライトファングに負けるようなことは絶対に許されません」

カオスデュークモン「ジュリアが言ったようにわれわれナイトクロウが負けるようなことは絶対に許されない、気を引き締めてがんばるように」

みんな「はい・・・」

ジュリア「じゃあ4人で一組になって特訓開始よ」

みんな「はい」

ニュートン「じゃあ、サヨ、リズム、ドロシー、僕達は奥の方で特訓しよう」

ドロシー「えー、別にここでもいいじゃん、ねえサヨ、リズム」

ニュートン「だめだね、お前らまだまだ甘すぎるんだよ。いいか？僕達は秘密の特訓をしに来てるんだぞ。ライトファングに見つかったら元も子もないじゃないか」

サヨ「おー、ニュートンにしては正論を言うじゃない」

リズム「ホントホント」

ドロシー「まったくこの馬鹿はこついうことになる」と正論を吐くん

だから。いいわ、サヨ、リズム、行きましょ」

サヨ、リズム「はい」

そういつてニュートン、サヨ、リズム、ドロシーは奥へと入っていった

パンチ「むっ、みんな、ニュートン達に負けるな」

セイヤ「ちえ、なんで俺だけこのナイトクロウ馬鹿3人組と一緒になんだ・・・」(ぼそ)

そういつてパンチたち4人も奥へ入っていった

そしてニュートン達は

サヨ「にしてもジュリア隊長もプレッシャーをかけなくてもいいじゃない」

リズム「プレッシャーを乗り越えてこそさらにがんばれって言うことかしら?」  
「こういうことを「転んでもただ起きず」っていうのかしらね」

「転んでもただ起きず」とは転んでも必ず何かをつかんで起きるということ

サヨ「まあ、ちょっと違うと思うけどまあ、そんなところね」

ニュートン「じゃ、明日のライトファンング戦、がんばるぞ」



0・9話 プロローグ（ナイトクロウ編）（後書き）

セイヤ「なんか最後無理やりじゃなかった？」

サヨ「それになんかゲームと違うところもあるし」

みづ「だって、その後の展開思いつかなかったんだもん」

リズム「なんか私のキャラ、追加要素が入ってない？」

みづ「あ、そうだ、リズムはことわざも大好き少女要素が入ったから」

リズム「それが大事なお知らせなの？」

サヨ・ヒカリ「違うよ」

セイヤ・リズム「わっ、ライトファングエース3人組」

コウ「俺達にも関係あることみたいだから来たぜ」

ソング「早く発表しろよ」

みづ「はいはい、あんた達6人の名前の漢字が決まったの」

みんな「おおー」

みづ「ヒカリとサヨはパラレルフロンティアで発表したんだけどこちではまだ発表してなかったから」

サヨ「だから私たちの表示がカタカナだったの」

みづ「じゃあ発表するよ」

みんな「イエーイ」

みづ「まずはコウから、コウは泷と書いて泷」

泷「おお、俺らしいいい漢字だな」

みづ「でしょ？じゃあ次セイヤ」

セイヤ「おう」

みづ「セイヤは星に夜と書いて星夜」

星夜「おお、なんかかつこいいな」

みづ「漢字のゆらいは後半になると分かってくると思から」

星夜「おう」

みづ「次はリズム」

リズム「ハイ」

みづ「リズムは里に一途の途に夢と書いて里途夢」

里途夢「なんか里に夢っていうのは分かるけど途って……」

みづ「だっていいのがなかったんだもん、我慢なさい」

里途夢「はい」

みづ「次はソング」

ソング「おう」

みづ「ソングは存に救うと書いて存救」

存救「なんか俺だけ適当じゃね？」

みづ「まあ、存は埋め合わせだけど救はいいでしょ？」

ソング「まあ、そうだけど……」

みづ「次、サヨ」

サヨ「ハイ」

みづ「さよは小さい夜と書いて小夜」

小夜「感想はパラルルのほうでいったから別にいいわよね」

みづ「最後ヒカリ」

ヒカリ「やっど？」

みづ「ヒカリは日に花に莉と書いて日花莉よ」

日花莉「漢字のゆらいはパラルルを見れば分かるのよね？」

みづ「そうそう、じゃあ次回は遂に対抗戦スタート」

日花莉「一回戦の相手は誰なの？」

小夜「どきどきするわ」

星夜「小夜、俺達の変わりに暴れてきてくれ」

洗「ナイトクロウなんかに負けるなよ」

みんな「次回もお楽しみに」

## 1話 VS ニュートン（前書き）

みづ「始まりました対抗戦、グループA一回戦が始まるうとしていきます。実況は私、みづごろうことみづと」

グレア「解説はこの僕、ライトファンク隊長のグレアがお送りするよ」

みづ「じゃあ本編スタート」

本編では名前表示は実況とさせていただきます

## 1話 VS ニュートン

実況「バトルの前にちょっとルール説明」

グレア「この対抗戦ではナイトクロウとライトファングがでてるんです」

実況「そう、そしてライトファングが三連勝したらライトファングがグループAのチャンプになれます」

グレア「でもナイトクロウが逆に三連勝してしまえばナイトクロウがグループAのチャンプになれます」

実況「ナイトクロウ、ニュートンはそのうち二連勝をしていることになるんですね」

ニュートン「まったく、もっと強い奴はライトファングにはいないの？」

チータ「くっそー、ニュートンの奴、調子に乗りやがって」

トンペイ「ニュートンのくせに!!」

パルサ「日花莉!! あんな奴になんか負けるな!!」

日花莉「うん、絶対に負けない、みんなの敵は必ずとる」

実況「ライトファング、遂にノーマルタイマーのルーキー日花莉だ!!」

グレア「日花莉はライトファンク期待の星だからニュートン」とき  
に負けるはずがないよ」

ニュートン「グレア隊長が何気にひどい…」

日花莉「いくわよ！！みんな」

実況「両者共にデジモンを出した！！ニュートンのデジモンはサン  
ダーボールモンが二体」

グレア「日花莉のデジモンはラピッドモン、エンジェウーモン、ル  
カモンだ！！」

日花莉「エンジェウーモン、ホーリーアローよ」

エンジェウーモン『ホーリーアロー』

実況「あっつと、サンダーボールモンにクリーンヒット」

グレア「いきなり必殺技でせめてますね」

日花莉「ラピッドモン、止めのラピッドファイアー」

ラピッドモン『ラピッドファイアー』

サンダーボールモン「ぎゃあああああああ」

ニュートン「攻撃する暇なかった…（泣）」

ルカモン「私、出番ありませんでしたわ（泣）」

日花莉「あ、ごめん、相手があまりにも弱かったから…次は参加させてあげるから（焦）」

ルカモン「はい…」

実況「これで一回戦を終わるよ」

グレア「また今度」

1話 VS ニュートン(後書き)

みづ「次回はパンチ戦、お楽しみに」

## 2話 VSパンチ（前書き）

更新遅れてすいません

ちよつといろいろありまして…

さて、今回はパンチ戦、今回は前回出番がなかったルカモンの出番はあるのか！？

では、本編スタート！！

## 2話 VS パンチ

パンチ「さすが、ライトファングの期待の星、あのニュートンをあっさり破るとはな」

日花莉「次はあなた？楽しませてね」

司会「では二回戦！！始め！！！！」

日花莉「行って！！ラピッドモン、ルカモン、エンジェウーモン」

パンチ「行け！！ガルルモン、マメティラモン、オーガモン」

日花莉（相手は攻撃型デジモン…なら守りは薄い筈…まずは暴れん坊で有名なオーガモンを倒すのが懸命ね）

日花莉「ラピッドモン！！オーガモンに集中攻撃よ、エンジェウーモンはラピッドモンの援護を、ルカモンはほか二匹を！！」

三匹「分かった！！！！」

ラピッドモン『ラピッドファイアー』

マメティラモン「させるか！！！！」

マメティラモン『マメバイト10000』

エンジェウーモン「させない！！！！」

エンジェウーモン『ホーリーアロー』

ラピッドモンに向かってくるマメティラモンをホーリーアローで吹き飛ばした

マメティラモン「ぎゃあ」

ルカモン「あなた方のお相手は私よ!!」

ルカモン『シエイキングパルス』

マメティラモン「ぎゃああああああつあああつあ」

司会「マメティラモン、KOだ!! しかしいいコンビネーションですね」

グレア「当然です、あの三体は幼年期のころからずっと一緒にいるんですからね」

司会「そんなに長くいるんですか? ならあのコンビネーションはずっと一緒にいた当然の報いというわけですかね?」

グレア「全くその通りですね」

ルカモン「次はガルルモンさん? あなたの番ですよ?」

司会「一方オーガモンとラピッドモンの試合はどうなってるんだかね?」

オーガモン「うがあ」

司会「あ、丁度終わったみたいですね」

グレア「あとはガルルモンだけか」

ガルルモン『フリーズファング』

ルカモン『シェイキングパルス』

ガルルモン「うわあああああああ」

司会「決まったーーーーー」

グレア「フリーズファングは近距離からの攻撃だから遠距離の攻撃には部が悪いんだよ」

司会「なるほど…では、また次回へ」

## 2話 VSパンチ（後書き）

今回はグループAのチャンプを決める試合で三回戦の相手はガッツだよ

次回もお楽しみに

### 3話 VSガッツ(前書き)

みづ「遂にAチャンプが決まるよ」

日花莉「っていつか更新遅すぎ」

みづ「だってパラルルフロンティアがやっと完成したの日花莉だつて知ってるじゃん」

日花莉「まあね」

みづ「次はガッツ戦だよ!!!」

日花莉「ガッツか…っていつか前から思ってたけど『VSニユートン』とかってポケ○ペみたいなのサブタイトルだよね」

みづ「だって、思いつかないんだもん」

日花莉「まあ、いいけど」

みづ「じゃあ、そろそろ」

日花莉「本編、始まるよ」

### 3話 VSガッツ

実況「さあ、始まりました、遂にグループAのチャンプが決まる瞬間！見逃せない一戦です！！実況は前回に引き続き作者と」

グレア「ライトファンク隊長、グレアでお送りするよ」

実況「ライトファンクからはかなり調子のいい日花莉、ナイトクロウからはガッツの対戦です！！」

ガッツ「ふん、俺はお前なんかには負けない！！」

日花莉「……」

日花莉（ちょっと三連戦はきついかかな？）

実況「さあ、バトル、開始です！！」

日花莉「ラピッドモン、エンジエウーモン、ルカモン！！ディアライズ」

ガッツ「ゴレモン、ボルケーモン、コウガモン！！ディアライズ」

実況「さあ、お互いデジモンが召喚されました」

ガッツ「ゴレモン！！ラピッドモンに『ゴレムパンチ』」

ゴレモン「うがぁ」

ゴーレモン『ゴーレムパンチ』

日花莉「ラピッドモン！！飛んでかわして」

ラピッドモン「うん」

上にとんでかわした

グレア「いい判断だね」

実況「え！？」

グレア「ゴーレモンのパンチ攻撃はかなり強力だからね、技で対抗するよりかわしたほうがいいんだ」

実況「なるほど…」

日花莉「今度はこっちのばんよ、ルカモン！！ボルケーモンに『シエイクングパルス』」

ルカモン「分かったわ」

ルカモン『シエイクングパルス』

ガッツ「ボルケーモン！！そんな攻撃跳ね返せ！！『ビッグバンボイス』」

ボルケーモン「おうよー！！」

ボルケーモン『ビッグバンボイス』

ボルケーモン「ボエー　　！！」

ルカモンはビッグバンボイスに直撃した

ルカモン「くっ、日花莉…ごめん」

ルカモンはやられて、ベタモンに退化した

日花莉「ルカモン…！！」

実況「あーっと、ルカモンがやられてしまったぞ…！！」

ボルケーモン「くくく、とどめだ…！！」

ガッツ「なっ、やめろ…！！もう、ベタモンは戦闘不能だ…！！」

グレア「これは…！！」

日花莉「くっ、エンジェウーモン…！！ボルケーモンに『ホーリーアロー』」

エンジェウーモン「ええ…！！」

エンジェウーモン『ホーリーアロー』

ボルケーモン「ぐわあああああ」

ボルケーモンはやられた



種だから、結構耐性は付いてるはずなんだけど・・・」

ゴーレモン「ぐるるるる」

ゴーレモン『カースクリムゾン』

ゴーレモンの攻撃はエンジエウーモンに行った

エンジエウーモン「きゃあああああああ」

ラピッドモン『ラピッドファイアー』

エンジエウーモンに当たる瞬間、ぎりぎりでラピッドモンが技を打ち消した

グレア「日花莉、ガッツ」

日花莉「なんですか？グレア隊長」

ガッツ「??」

グレア「暴走したと、いうことがばれて大混乱になる、だから、暴走を止めてほしい」

日花莉「分かりました」

ガッツ「どついうことだよ」

日花莉「私のデジヴァイスには特別な機能があるの」

ガッツ「特別？」

日花莉「うん、実際、さっき見たでしょ？」

ガッツ「あのカメラみたいなの？」

日花莉「うん、暴走したデジモンの原因が調べられるの」

ガッツ「へえ」

日花莉「で、もう一つ、私のデジヴァイスのカメラの所でシャッターを、押せばワクチンが発射して、ウィルスを退治するの」

ガッツ「ふーん…」

日花莉「でも、一つだけ問題があって、一回倒さなくちゃいけないの」

ガッツ「え！？じゃあ、俺は…」

日花莉「うん、大会を辞退しないとイケないの」

ガッツ「…分かった、俺も一人のタイマーだ、デジモン達を戻す義務を俺にはある…！」

日花莉「よし！！よく言ったわ」

日花莉「じゃあ、ラピッドモンはゴレモンに『ラピッドファイアー』、エンジエウーモンはコウガモンに『ホーリーアロー』」

ラピッドモン「うん、ごめんね、君には怨みはないけど」

ラピッドモン『ラピッドファイアー』

ゴーレモン「ぐるあああああああ」

ゴーレモンは倒れた

日花莉『ウイルスバスター』

ゴーレモンは、ワクチンを接種された

エンジエウーモン『ホーリーアロー』

コウガモン「ぎゃあああああああ」

コウガモンは倒れた

日花莉『ウイルスバスター』

コウガモンにワクチンが接種された

実況「決まった！グループAチャンプは、ライトファングの日花莉に決定だ！！」

日花莉「ふう」

ガッツ「日花莉……」

日花莉「ん？」

ガッツ「その…サンキューな…でも！！次は負けないからな！！」

日花莉「うん、期待してる」

握手をした

実況「以上を持ちまして、グループAの試合を終わります、しばしの休憩です」

### 3話 VSガッツ（後書き）

みづ「今回はハプニングだったね」

日花莉「暴走したときは焦ったよ」

みづ「お疲れ」

日花莉「次はいよいよ決勝だね」

みづ「うん、書くのが楽しみ」

日花莉「ハプニングなしで、いい試合を書いてよ」

みづ「もちろん」

みづ・日花莉「次回もお楽しみに」

#### 4話 VS小夜&星夜&里途夢(前書き)

みづ「今回はトリプル戦」

日花莉「オリジナルね」

みづ「ルール説明」

1・三人で戦う

2・協力プレイ

3・三人一匹ずつ出し合って戦闘不能となったらその時点でもう戦えないので後は残ってる人たちを信じて戦いましょう

日花莉「最後のなにあれ？」

みづ「いいじゃん」

みづ・日花莉「始まるよ」

#### 4話 VS 小夜&星夜&里途夢

休憩中

日花莉「あー疲れた…」

洸「お疲れ」

存救「大丈夫か？姉ちゃん」

三人は気分転換にロビーを散歩していた

???「やあ、三人とも」

日花莉・洸・存救「グレア隊長！！オファニモン！！ジュリア隊長！！カオスデュークモン！！」

そこにいたのはライトファンク隊長のグレア、そのパートナーデジモンのオファニモン

ナイトクロウ隊長のジュリア、そのパートナーデジモンの<sup>カオス</sup>Cデュークモンだった

ジュリア「あなた達…がんばってるようね、特に日花莉は高く評価するわ」

日花莉「ありがとうございます」

グレア「日花莉、洸、存救はまだまだ伸びますよ」

ジュリア「でしょうね…でもうちの小夜、星夜、里途夢も負けてないわよ」

グレア「ああ、そのようだね、あの三人の噂は聞いてるからね」

オファニモン「私たちもあの三人のことを高く評価してるわ」

Cデュークモン「ふん、当然だ」

二人と二体の間に火花が散ってる

日花莉「えっと、あの？」

小夜「ありがとうございます、グレア隊長、オファニモン、ジュリア隊長、Cデュークモン」

里途夢「でも私たちはまだまだです」

その時、グレア達の間を割ってはいってきたのはナイトクロウのノーマルティマーのルーキー、小夜、里途夢、星夜である

日花莉「小夜…」

そして…

日花莉「小夜！！」

小夜「あ、日花莉」

日花莉「さつきはありがとう」

小夜「別に……」

日花莉「決勝戦ではお互いベストをつくそうね」

小夜「当然……!」

日花莉「じゃあ私こっちだから……それと、デジモンが暴走しないようにしてってほかの二人にも言っというてね」

小夜「??」

日花莉「じゃあね」

実況「さあ、遂に始まりました!! 待望の決勝戦!! ライトファングが勝つか、ナイトクロウが勝つかの見逃せない一戦です!!」

グレア「これはトリプル戦だからね、どんなデジモンで立ち向かっていくのか見ものだよ」

日花莉「行ってきて!! ラピッドモン!!」

洸「いけっ!! ライズグレイモン!!」

存救「いけっ!! スーパースターモン!!」

実況「ライトファングはそれぞれ異なるデジモンを出してきましたね」

小夜「行くのよ！！アンティラモン！！」

星夜「いけっ！！マツハガオガモン！！」

里途夢「行って！！ルークチェスモン！！」

実況「こちらにも個性豊かなデジモンをだしてきましたね」

星夜「スーパースターモン」（キラキラ）

小夜「まーた悪い癖が出た…」（呆）

洗「はあ、星夜は星が大好きで、スターモン系はデジモンの中で一番好きなんだよ」

日花莉「よく知ってるわね」

洗「そりゃあ、双子の弟だからな」

日花莉「そりゃあそっか」

存救「里途夢姉、星夜兄を引き戻せよ」

里途夢「んー…無理！！っていうことで小夜姉よろしく」

小夜「洗！！よろしく」

洗「諦めるの早い…しょうがない…ライズグレイモン…死なない程度に『トライデントリボルバー』」

ライズグレイモン（死なない程度って…あんま自信ないけど…やるか）

ライズグレイモン『トライデントリボルバー（十分の一）』

日花莉「死なない程度ってできるの？」

洗「知らん！！ただ、まえにメガフレイムをやった時には死ななかつた！！」

みんな「おい！！」

日花莉「なに開き直ってるのよ」

星夜「ぎやああああああああああ」

星夜「はっ…おれは一体何をしてたんだ…」

みんな「……………生きてる」

実況「あのー、そろそろ始めてもよろしいでしょうか？」

日花莉「別に構いませんよ」

実況「バトル開始」

ズキッ

日花莉（っ！？ケルベロモンに噛まれた傷跡が…！！こんな時に！早く終わらせないと！！）

日花莉「先手必勝!!」ラピッドファイアー」

ラピッドモン『ラピッドファイアー』

アンティラモン「遅い!!」

ラピッドモン「何!?!」

アンティラモンはラピッドファイアーを難なくかわした

小夜「アンティラモン!!」アシトラヴァナ」

アンティラモン『アシトラヴァナ』

ラピッドモン「うわああああああ」

日花莉「さすが十二神将<sup>デーヴァ</sup>…手強いわね…でも!!」

スーパースターモン『ハレースコール』

空から燃えた流星が降ってきた

アンティラモン「何ッ!?!ぐわああああああ」

日花莉「私たち三人はかならず勝ち残るって信じてた…最後の決勝戦がトリプル戦だと知ってたからこのコンビネーションを完成させてきたのよ!!」

そう、あらかじめスーパースターモンのハレースコールは上に待機

させ、日花莉は、アンティラモンがかわすことを読んだ上でラピッドファイアーを使わせたのだ

日花莉「デーヴァの中で一番素早いからね、アンティラモンは」

小夜「くっ…素早いことが上目にできるとはね…でも…!」

星夜「コンビネーションはそっちが上かもしれないが…単体戦はこっちが得意なんだよ…!」

泷「ライズグレイモン…!」

ライズグレイモン「グ…お、俺は大丈夫…だ」

日花莉「実況さん…!」

実況「ん？」

日花莉「アイテム使用は？」

実況「OKです」

泷「じゃあ、フルデジタルTを使用」

小夜「なんでそんな高価な品を持つてるの…!？」

日花莉「え？だって私がデジタルとかデジミンなどを造ってるもん」

小夜「そうなの？」

日花莉「うん、サンシャインシティではいつの間にか博士とか天性の知恵とか…ティマーについては癒しのエンジェルとか言われてるわ」

小夜「そういえば噂でライトフアングには天才博士がいるって聞いたことがあるわ」

ラピッドモン「どうだ…！僕のティマーは凄いなぞ…！」（威張り）

アンティラモン「…凄いのは日花莉であってラピッドモンじゃない…」

ラピッドモン「僕は助手をやってるんだから…！」

実況「試合中なんですけど」

みんな「はっ」

ラピッドモン「行くぞ…！」

ラピッドモン『ゴールドントライアングル』

アンティラモン『ハオファー宝斧』

ラピッドモンは両手を広げ、足を揃えそして逆三角の形の物が飛んできた

一方アンティラモンは腕を斧に変え、ゴールドントライアングルを真っ二つに切り裂いた

ラピッドモン」……」

実況「すごい戦いになってきました!!」

ズキズキ

日花莉「くっ」

ドカーン

会場にいる人たち

日花莉「ケル…ベロ…モン？」

そこにはケルベロモンの大群が暴走していた

バタッ

小夜「日花莉!!?」

洸「あんないつぺんにケルベロモンを見たんだ…無理もない」

里途夢「どういうこと? 日花莉姉は私達に会ってない間にながあつたの?」

存救「詳しくは分からないが日花莉姉はある日…一人でミッションに行ったんだ」

洸「その時、日花莉が腕に重症を負って運ばれて来たんだ」

存救「日花莉姉の腕から牙が出てきて多分戦闘中に抜けたんだろう…」

泷「その牙は調べてみたらケルベロモンだったんだ」

存救「日花莉姉は元々暴力によるトラウマはその古傷が痛む体質なんだ…」

泷「それ以来、ケルベロモン恐怖症に…もちろんミッションはあえなく失敗に終わった」

小夜「なんで日花莉の体質が分かるの!？」

泷「昔…日花莉は悪質ないじめにあってきたんだ…ナイトクロウの連中にな」

存救「隊長もそれが分かってる…だからあんまりダークムーンシティの用事を言いつけない…」

小夜「そういえば…あんましダークムーンシティで日花莉をみない…」

小夜（ホッ…日花莉に嫌われているんじゃないのね）

星夜（なるほどな…）

里途夢（クスクス）

泷「その時に分かったんだ…日花莉の体質のこと…まあ、俺達が日

花莉を助けて以来いじめられなくなったみたいだな」

ラピッドモン「って！！そんなこと説明してる場合！？」

実況「えーっ！！緊急事態のため！！中止にさせていただきます！！みなさん！！おちついて非難してください！！ティマーの方は！！このデジモン達をなんとかしてください！！」

洸「ラピッドモンは日花莉を頼む！！」

「？？？」待つてください！！」

洸「エンジェウーモン！？」

エンジェウーモン「私も連れてって！！」

洸「でも！！」

エンジェウーモン「いざとなったらルカモンもいるから！！第一成熟期のレッパモン、ファイラモンだけで浄化できると思ってるの！！」

洸「ぐっ……」

小夜「…以外に毒舌……」

星夜「まっ浄化は俺達の専門外だし俺達は囿になるかな」

里途夢「私たちはそれいがい役に立ちそうにないしね」

洗「そんなことないって!!」

存救「…僕も囿にまわるよ…スーパースターモンは聖種族だけど浄化能力はないから…」

みんなデジモン達をリロードする

レツパモン「来るぞ!!」

洗「みんな!!行くぞ!!」

みんな「おう!!」

次回に続く…

4話 VS小夜&星夜&里途夢（後書き）

みづ「終わった」

日花莉「みんなは？」

みづ「本編に出張」

日花莉「じゃあ私だけ？」

みづ「うん」

日花莉「ふーん」

みづ「次回はケルベロモン戦！！」

日花莉「がんばれ…みんな」

みづ・日花莉「次回もお楽しみに」

## 5話 日花莉の過去、小夜の決意（前書き）

みづ「みんな久しぶり〜、今日から小説再開するよ〜」

星夜「やつとか…」

小夜「待ちくたびれた…」

みづ「まあまあ…今回は日花莉の小さい頃のお話を聞いた小夜の決意が新たにするよ」

里途夢「日花莉姉の過去…よくよく考えてみたらライトファングの人たちしか分からないもんね」

みづ「そういうこと…!」

一同「本編スタート」

## 5話 日花莉の過去、小夜の決意

ケルベロモン「グルルル」

ルカモン『シエイキングパルス』

ラピッドモン『ラピッドファイアー』

ケルベロモン『ヘルファイアー』

ドカーン

ラピッドモン「くっ…：こんなに多くちゃ僕たちだけじゃ…：限<sup>きり</sup>がないよ」

ケルベロモン「ぐるるる」

その時、別のケルベロモンが日花莉に襲い掛かろうとしていた

ラピッドモン「しまった!!」

レキシモン『ムーンナイトボム』

ケルベロモン「zzzzz」

レキシモンが放った水の泡がケルベロモンに当たり、ケルベロモンは寝てしまった

エンジエウーモン『ヘブンズチャーム』

そしてエンジェウーモンの力により、悪しき力は浄化された

ラピッドモン「ありがとう」

レキシモン「大丈夫？」

小夜「私たちも日花莉を守るわ」

レキシモン「回復してあげる」

レキシモン『癒しの水』

ルカモン「あれ？ライラモンは？」

小夜「ああ、ライラモンの力が必要だから、今は囃チームに行ってるわ」

ライラモン『アン・ドウ・ポラン』

ケルベロモン「ぐが…」

ラピッドモン「…ねえ…」

小夜「？」

ラピッドモン「ライラモンのアン・ドウ・ポラン…スーパースターモンとクロックモンを巻き込んでるのは僕の見間違い？」

スーパースターモン「猛烈に…シビ…レル…ぜ」

クロツクモン「機械の麻痺…機械の麻痺」

小夜「…ライラモンのドジ」

こういうトラブルもありながらなんとか全部のケルベロモンの浄化に成功した

ケルベロモン「いやあ…助かったよ」

ケルベロモン「一生恩に着るぜ」

洗「わ、分かったからもう帰った方がいいぜ？」

ケルベロモン達「じゃあな」

日花莉「いたたた」

小夜「大丈夫？」

日花莉「うん…なんとか」

小夜「もう帰った方がいいよ…顔色も優れないようだし」

日花莉「うん…そうだ…小夜たちも一緒に行かない？せっかくまた、兄弟どうしが会えたんだし…」

一日ぐらいは私たちのティマーホームに泊まりにおいでよ」

洗「いい考えだな！！それ」

小夜「でも…ジュリア隊長たちがなんて言うか…」

????「泊まっついていきなさい」

ナイトクロウ「ジュリア隊長!」

Cデュークモン「そうだ…今回は特別許可をやるっ」

ジュリア「それでいいですよね?グレア隊長?」

グレア「ああ、今回はご褒美だ…日花莉もデジモン達がいるとはいえ、心配だからな」

一同「やったー」

そして場所は変わりいったん日花莉のティマーホームに集まることにした一同たち

ティルモン「お帰りなさいニャー」

ナイトクロウはなぜかホームデジモンが一緒

日花莉「はあ、今日は精神的に疲れた…」

小夜「ねえ…聞いていい?」

日花莉「ん?」

小夜「昔…いじめられてたって言ってたけど…あ、答えたくないなら答えなくていいのよ」

日花莉「…いうよ…お姉ちゃんや妹、従兄には知る権利があるから…」

日花莉「ねえ、ナイトクロウの噂で聞いたことない？ライトファングには不幸を呼ぶ少女がいるって」

星夜「あ…そういえばそんな噂聞いたことがある！！それってまさか」

日花莉「そう…私のこと…私は殺し屋の娘…どこからその情報が漏れたか知らないけどその所為でいじめられてきたわ」

泷「今では信じがたいけど昔の日花莉は信じられないくらい暗かった…いや、表では笑ってたけど心から笑ったことはない…むしろ泣いていた」

存救「いつも用事があるとかで口実を作っていつも傷だらけで帰ってきてた…辛かった」

日花莉「そりゃあ、デジモン達の攻撃を受けてたからね…いつもいつも…まあ、あの時のあいつはテイマー成り立てだったからせいぜい成長期ぐらいの技だったから助かったけどね」

泷「もう、ボロボロになっていく日花莉を見ていられなくて日花莉のあとをつけたんだ…パルサ、コマチ、トンペイ、チーター、ケンパ、ガオウさん、ライラさん、ギデオン先輩、リットン先輩と一緒にな」

存救「そしたらデジモン達を使って日花莉姉ちゃんをいじめてたん

だ  
」

洗「後から聞いた話したと日花莉を脅してデジモンの力を試してたんだってよ」

存救「その上、変な噂を流して日花莉姉ちゃんに友達とか、日花莉姉ちゃんを避けさせるようにして、精神的に追い込んだりしたものいじめっ子であるあいつの仕業なんだ!!」

星夜「名前とか…分かんないのか？」

洗「それが…全然なんだ…あの時俺達もかなり興奮（怒りの意味で）してたから名前とか聞くの忘れてたんだ…」

存救「くっそ…あの時名前さえ聞いとけばティマー免許剥奪だったのに…」

ティマー免許とは

ティマー免許とは、パラレルワールドにも因るがまず、初代デジモンストーリーの世界やデジモンストーリーロストエボリューションの世界ではかならずデジモンを扱うに至ってはティマー免許の発行が必要なのだ

サンバースト、ムーンライトの世界でもそれは同じ

免許のバージョンアップもあって

無印〓白

ノーマル〓紫

ブロンズ〓緑

シルバー〓水色

ゴールド〓黄色

プラチナ〓オレンジ/インディゴ

上記のようにバージョンアップする  
その免許が剥奪された場合にもよるが何年間デジモンを持つ  
ことすら許されずその上、デジモン達をデジタマに戻され、デジモ  
ン達とパートナーの絆にもよるが大抵はデジモン達の記憶もなくな  
っている

小夜「日花莉…」

日花莉「!?!」

小夜はいきなり日花莉に抱きついた

小夜「日花莉…辛かったんだね…これからはなにがあっても日花莉  
を守るから…日花莉を信じるから…」

日花莉「…お姉ちゃん」

ファスコモン「美しい姉妹愛だプウ」

テイルモン「日花莉…よかったにゃあ」

テリアモン「いい話しだねえ」

ロップモン「水を差すようで悪いけど明日も早いんだから帰って寝  
たほうがいいよ」

洗「そうだな・・・」

存救「帰るか…里途夢姉ちゃん」

里途夢」「…そつねえ」

小夜・日花里」「おやすみ」

一同「おやすみ〜」

## 5話 日花莉の過去、小夜の決意（後書き）

みづ「ねえねえ、今回、みんなの声優さんを考えてきたよ」

日花莉「どんな人？」

みづ「えっとね、まず洸は竹内順子さんがいいと思う」

日花莉「あー、熱血漢なところが竹内さんの声があってるのね」

洸「みんな、サッカー（みづ「やめろ」）」

みづ「次は星夜、星夜は吉野祐行さん」

小夜「あー、スポーツマンでせっかちそうな声」

洸「鬼どー（星夜「だからやめろっ」）」

みづ「存救は、渡辺久美子さん」

日花莉「あー、確かにケ○ロもトラブルメーカーだもんね」

みづ「あはは、そうそう」

存救「…ゲッゲーロ」

みづ「次は里途夢、里途夢は大谷育江さん」

小夜「確かに素直そうな声だもんね」

里途夢「そう・・・なの？」

星夜「無自覚か」

みづ「次は小夜、小夜は釘宮理恵さん」

日花莉「確かに小夜は役柄、誰かのために叫ぶの多そうだもんね」

小夜「そういうこと言わないの」

みづ「最後に日花莉は、前田愛さん」

小夜「デジモンのエンディング曲を歌ってる人ね」

みづ「そうそう、日花莉も里途夢と一緒に歌が大好きって設定にしてるから」

小夜「なるほどねえ」

洸「そろそろ次回予告の時間だつてばよ」

小夜「あんたはいい加減にしろ!!」

みづ「次回は進化不可能に」

日花莉「進化不可能って!?!」

小夜「どういふこと!?!」

一同「次回もお楽しみに」

## 6話 進化不可能！？謎のデータを消滅させよ（前書き）

日花莉「進化不可能って大げさじゃない？」

小夜「そうそう、ゲームではレベルを上げたら進化できるんだから」

みづ「んなこというな！！サブタイトルは少し大げさが迫力がでて丁度いいの」

みづ「今回はホームにいたデジモン以外がデジタマに！！小夜たちの住んでいるダークムーンスィティとの扉も閉ざされてしまった…どうなる！？」

一同「本編スタート」

## 6話 進化不可能！？謎のデータを消滅させよ

日花莉「zzzzz」

小夜「zzzzz」

ビービー

テイルモン「起きるにゃ、日花莉！！」

ファスコモン「起きるぷう、小夜！！」

日花莉「ん？どうしたの？」

小夜「ふあああ」

テイルモン「サンシャインシティに何者かが侵入したにゃ」

日花莉「えっ！？ナイトモンはどうしたの！？」

ファスコモン「それだけじゃないぷう…日花莉と小夜のデジモン達の進化経歴がリセットされて、成長期以上は進化できないぷう」

小夜「そんな！！」

日花莉「頑丈なセキュリティのホームでもこの調子なら…シティはもっと大変なことになってるかも…」

小夜「星夜たちに連絡を取って！！」

ティルモン「ホームに直接連絡をとるにや」

ブルルルルル

ガチャ

アグモン「もしもし？」

ティルモン「あ、アグモン…洗と星夜にかわつてにや」

アグモン「ティルモンだぎや？分かつたぎや…洗、日花莉のタイムーホームから通信が入つてるだぎや」

洗「ああ、分かつた」

日花莉「洗、これからどうする？」

洗「うーん…とりあえず外に出て現場把握でもするか…？」

日花莉「うん…それが一番だと思う…シティは深刻な被害を受けてると思うし…それにもし怪我人もいたら救助もしなきゃいけないと思つし…」

洗「じゃあ、存救達には俺から連絡つけるから、お前達はタイマーホームの前のお店に行つといてくれ」

日花莉「OK」

洗「また後で」

ブチッ

そういつて電話は切れた

日花莉「小夜！！外に行くわよ」

小夜「うん、分かってる…はい、デジヴァイス」

日花莉「ありがとう」

そういつてゲートに乗って外に出た

一同「!？」

日花莉「何これ…？」

小夜「酷い…」

一同が見たものは気絶しているタイマーと無残に転がってるデジタマだった

日花莉「とりあえず…お店に入ろっ…」

小夜「うん…」

お店にて

オタマモン「あ、日花莉さん!!」

日花莉「よかった…あなた達は平気なのね…」

パタモン「うん、僕達はお店のセキュリティが頑丈なおかげで平気なんだ」

日花莉「お店やクエストユニオンのセキュリティはホームより頑丈だからね」

バクモン「そんなことないですよ」

ブイモン「そうだよ、ウィルスが進入して、品物が入荷できなくなっただ」

オタマモン「それはクエストユニオンでも同じみたい」

小夜「そう…」

洸「お待たせ…」

洸、星夜、存救、里途夢が入ってきたが、やはり元気が無かった

やはり外のをみただからであろう

里途夢「いつたい誰があんなことを…」

星夜「あれをみたら一瞬で状況把握できたよ…」

日花莉「とにかく！！みんな！！怪我人の手当てをしよう！！」

洸「日花莉…グレア隊長の所に行ってくれ…みんなの手当ては俺達

が手分けしてやるから…」

日花莉「分かった!!」

サンシャインゲート

日花莉「やっぱし…ナイトモンもデジタマになってる…デジタマの位置を見ると侵入者を通すまいとしてやられたのね…」

サンシャインオフィス

日花莉「!?ボコモン!?!」

ボコモン「日花莉!!大変だ!!謎のデジモンがユニオンルームに向かっていった!!」

日花莉「なんですって!?!ありがとうございます、ボコモン」

日花莉（オファニモンがいるから大丈夫だとは思っけど…でも、あのウイルスがやっかいだわ…デジモンをデジタマにするウイルスもあれば、べつのウイルスも、持っているかもしれない…例えば…対抗戦でデジモンを暴走させたあのウイルスをオファニモンに使われたら!!）

ユニオンルーム

グレア「くっ…僕たちの意識を奪うつもりか!!」

???「ふははははははははははは」

グレア「ぐっ」

グレアは気絶した

日花莉「グレア隊長!!」

テリアモン「オフアニモン!!」

プロットモン「大丈夫…まだ少ししかウィルスは注入されてないから、オフアニモンの力があれば体内のウィルスは自力で浄化できると思うわ」

ベタモン「なんか、やばい感じがします…」

日花莉「うん…ウィルス暗黒の塊ね…」

プロットモン「とりあえずウィルスの現況は今ここで絶つとかなきゃね…」

日花莉「進化できないけど…大丈夫?」

デジモン達「大丈夫!!」

日花莉「じゃあ、戦闘…開始!!」

プロットモン『ホーリーシユート』

ベタモン『ウオーターショット』

テリアモン『ブレイジングファイア』

テリアモン「どうだ!」

謎のデータ「ふっはっはっはっは」

ベタモン「わ、笑ってる…」

謎のデータ『キャッツアイ』

ベタモン「し…痺れる」

テリアモン「くっ」

プロットモン「日花莉…ごめん…」

日花莉「くっ…」

日花莉（ウィルスが進入したおかげでアイテムはロストしちゃったし…どっしよっ…）

ぴよん　ぴよん

日花莉「ん?」

トロモン「うーーーーー」

日花莉「トロ…モン?」

トロモン「うーーーーー」

日花莉「でも・・・違う…額にXって言う文字…間違いない…！ト  
コモンX抗体」

謎のデータ「……………」(焦り)

日花莉「…?」

日花莉(こんな可愛い幼年期デジモンを見て焦りだした?)

トコモンX「ヒ・・・カ・・・イ…ぼくも…いっしょにたたかう」

日花莉「いいの?」

トコモンX「あい!!」

日花莉「うん!!分かった!!」

日花莉『デジコンバート!!トコモンX抗体!!』

そういつと、トコモンはデジバースに吸い込まれていった

デジバース『デジコンバート開始…10%…30%…50%…80%…  
100%!!トコモンX抗体、デジコンバート完了しました』

日花莉「トコモンX!!リアライズ!!」

トコモンX「あい!!」

日花莉「トコモン!!」七色の泡『』

トコモン』ややいよよあわ』(七色の泡っていつてる)

七色の泡がでてきて謎のデータに直撃する

謎のデータ「ぐわあああああ」

日花莉「!?!」

日花莉(成長期の技は平気な顔だったのに幼年期の技は効いてる…いや…あいつの弱点は…X抗体を持つデジモン!!…思えばポコモンは、外に出てたけどデジタマにはなっていないかった…それはポコモンもX抗体を持っていたから!!…)

日花莉「トコモン!!もう一度よ!!」

トコモンX「あい!!」

トコモンX『ややいよよあわ!!』(七色の泡!!)

謎のデータ「ぐわあああああああ」

こうして…謎のデータは消滅した

日花莉「やった」

トコモンX「ティアモンにいたん?ベアモンねえたん?プロットモンねえたん?だいようぶ?」(ティアモン兄ちゃん?ベタモン姉ちゃん?プロットモン姉ちゃん?大丈夫?)

日花莉「はは…言いたいことはなんとなく分かるけどだいたい舌足ら

ずで何言ってるかうまく聞き取れないわ…」

日花莉（ベタモンに関しては別のデジモンになってるし…）（苦笑い）

グレア「う…」

日花莉「グレア隊長!!」

グレア「日花莉？」

日花莉「大丈夫ですか？」

グレア「ああ…なんとかな…僕たちのことよりライトフアングで無事な者呼んでシステムチェックだ」

日花莉「了解!!」

日花莉（洗たちは…怪我人の手当で忙しそうだからコマチ、パルサ、トンペイ、チータ、ケンパを呼べばいいか）

こうして、日花莉達のシステムチェックが始まった？

次回へ続く…

6話 進化不可能！？謎のデータを消滅させよ（後書き）

日花莉「最後無理やりすぎ…」

みづ「しょうがないじゃん…最初のユニオンクエストは繋がってて切りがいいところを見つけるのは難しいんだもん」

日花莉「じゃあ、もうちょっと言い方を工夫すればいいじゃない」

みづ「自慢じゃないけど私は日本人だけど日本語下手なの…どう区切ればいいのか分からないんだから」

日花莉「威張るな！！もういいから、次回予告やって…」

みづ「今回はログインマウンテンで存救に新しいパートナーが」

日花莉「どんなだろう…」

存救「楽しみだよ」

一同「次回もお楽しみに」

7話 イグドラシルの実験体：パラレルワールドから来たデジモン（前書き）

日花莉「パラレルワールド？」

みづ「今回はユーチオーブで見れば分かるんですが…3DCG映画、デジタルモンスターゼヴォリユーションの主演デジモンが日花莉たちの世界、サンムーンワールドに迷い込みます」

小夜「マジー!!」

存救「じゃあ、アルファモンがでてくるの!？」

みづ「いやぁ…それは後半のほうでね?」

日花莉「じゃあ、トコモンも!？」

みづ「それは本編で!!」

7話 イグドラシルの実験体：パラレルワールドから来たデジモン

日花莉「うーん…大分怪我人も多いみたいだし…お店やクエストユニオンは何とか回復したけど…ほかはウィルスの侵食がひどいから回復までに時間がかかるわ…ダークムーンスィティとも連絡が途絶えたままだし…」

小夜「そう…」

トコモンX「…」（ぐすん）

日花莉「トコモン？」

トコモンX「ドコモン」（ドルモン）

日花莉「ドルモン？…知り合い？」

トコモンX「トコモン…ドコモンとはぐえた」（トコモン…ドルモンとはぐれた）

小夜「このトコモン…X抗体持つてるんでしょう？もしかしたら…この子の親代わりかも」

トコモンX「あのね、あのね…アユモンとガユモンともはぐえた」（アグモンとガブモンともはぐれた）

星夜「そいつらも仲間か」

トコモンX「あい…でも、アユモンみちゆけた」（アグモン見つけ

た)

アグモンX「俺？」

トコモンX「あい」

洗「確かにこいつもX抗体を持つてるけど……」

グレア「そのアグモンは記憶メモリーが消えてしまったんだ」

一同「グレア隊長!!」

アグモンX「俺は……確かに記憶がない……でも、このトコモンを見れば……昔の記憶を少し思い出せそうなんだ……」

日花莉「……もしかしたら……思い出せるかもしれないよ？」

一同「えっ!?!」

日花莉「トコモン、あと仲間はドルモン、ガブモンだけ？」

トコモンX「あい!!」

日花莉「……どうしてはぐれちゃったの？」

トコモンの通訳をするのが面倒なので普通の言葉に戻します  
返事はあいのままで

トコモンX「トコモン達が住んでる世界で周りがゆがんだの……それで、ウォーグレイモンはアグモンに、メタルガルルモンはガブモン

になっちゃったの…そして気が付いたらお空の上でそしたらピュー  
っておっこっちゃったの…その時にはぐれちゃったの」

日花莉「うーん…パラレルトリップ？」

一同「パラレルトリップ？」

日花莉「うん、たまにだけど別世界のデジタルワールドにゆがみが  
できて、別世界に来てしまうことがあるの…多分トコモンやアグモ  
ン達はその住人なんじゃないかな？」

トコモンX「あのね、あのね、ドルモンは凄いだよ」

テリアモン「どこが凄いの？」

トコモン「あのね、あのね、ドルモンはネットの世界を管理してる  
仲間なんだよ」

日花莉「ネットの世界を管理？それってロイヤルナイツ？」

トコモン「アルファモンかっこいいんだよ」

日花莉「え？アルファモン!？」

トコモン「うん」

日花莉「それってロイヤルナイツでも空白の席と詠われてる伝説の  
聖騎士じゃない!！」

トコモン「あい、かっこいいんだよ、ドルモンが本気を出せばロイ

ヤルナイツにだって負けないよ」

日花莉「いやいや、アルファモンもロイヤルナイツだから…」

トコモン「でもね、オメガモンと一緒にイグドラシルと戦ったよ？」

日花莉「マジ？」

グレア「日花莉…盛り上がってるところ申し訳ないけど今すぐリンクが回復したばかりのログインマウンテンにいつて異常がないか調べてきてくれないか？ 洸と存救もだ」

日花莉・洸・存救「了解！！」

トンペイ「グレア隊長！！俺達に行かせてくれよう」

グレア「だめだ！！」

チータ「俺達だってそれくらいできるぜ」

ケンパ「私も…行きたいです」

グレア「今外がどうなっているのかも分からない状態で行くのは危険すぎる」

トンペイ「ちえ…もういいよ、行こうぜ、チータ、ケンパ」

グレア「…彼らの気持ちは分かるが危険なんだ…ここは我慢しても  
らわないと」

小夜「あの…グレア隊長、私たちは」

グレア「ああ、君達はアングラトンネルを調べてきてほしいんだ」

小夜「了解」

サンシャインゲート

グミモン「ちみたち…とまるでしゅ」

洸「俺達？」

グミモン「そうでしゅ」

日花莉「グレア隊長から許可を得たわよ？」

グミモン「…！ごめんでしゅ、グレア隊長から話しは聞いてるでしゅ」

日花莉「そう」

グミモン「あの三人みたいに無理やり出て行くかと思ったでしゅ…  
ごめんでしゅ」

存救「あの三人？」

日花莉「まさか…」

洸「とりあえず…行くこうぜ」

日花莉「うん…」

ログインマウンテン

トコモンX「ねえ、日花莉」

日花莉「ん？」

トコモンX「あそこにいるの…ケンパお姉ちゃんじゃない？」

プロットモン「ホントだ」

ケンパ「日花莉、洗、存救…」

日花莉「あの二人はどうしたの？」

ケンパ「いきなりデジモンが襲ってきて…それではぐれてしまったの」

洗「とりあえずケンパは帰れ…」

ケンパ「でも…分かりました…あの二人のこと、よろしく願います」

こうしてケンパは帰った

存救「…奥に進むにつれてデジモンが強くなっていくから危険だよ」

日花莉「わかってるわ…早いとこ見つけ出してグレア隊長のお説教タイムとしますか」

トコモンX「……つちに来て……！」

テリアモン「あ、トコモン……！」

????「はあ……トコモン……どこにいるんだろ……俺がもっとしっか  
りしていれば」

トコモンX「ドルモン……！」

トコモンを追って行くとそこにはドルモンがいた

ドルモン「トコモン……！」

トコモンX「ドルモン、ドルモン」

ドルモン「トコモン……よかった……無事で」

日花莉「あなたがドルモン？」

ドルモン「あ、はい、あなたは」

日花莉「トコモンのタイマー、太陽日花莉」

アグモンX「……なんか……記憶がここまでかかってるよ」

洗「本当か？アグモン」

アグモンX「うん」

ドルモン「アグモンも！！久しぶり」

トコモンX「あのね、あのね、アグモンはね、記憶喪失だから、あと、ガブモンを見つけないと記憶が戻らないって日花莉がいつてたの」

ドルモン「本当ですか？」

日花莉「うん…ねえ、ドルモン…存救のパートナーになんない？」

存救・ドルモン「え！？」

日花莉「今、この世界には恐怖の歯車が動き出してるの…恐怖の歯車が誰か分からない…けどねこれだけは分かる…敵はあなた達X抗体を持つデジモンが弱点なのよ…だから協力してほしいの」

ドルモン「でも…」

トコモンX「トコモンね、日花莉と一緒に戦う！！」

ドルモン「そうだな…この世界がこんなことになってるなんて…ロイヤルナイツとしてはほっとけない！！」

さりげなく中の人ネタが入ったドルモンでした

存救「じゃあ、とりあえず」

存救『デジコンバート、ドルモン！！』

そういうと、ドルモンがデジバイスに吸い込まれていった

デジバース「デジコンバート開始…10%…20%…30%…50%…80%…100%…ドルモン…デジコンバート完了しました」

存救「リロード…!ドルモン…!」

ドルモン「よろしくな、存救」

チータ「うわああああ」

トンペイ「わああああああああ」

トコモンX<sup>12/012/0</sup>

テリアモン「トコモン?」

????「ぐおおおおおお」

トコモン「怖い」

ドルモン「あれは!?!」

デジモン図鑑「デクスドルガモン 成熟期 アンデッド型 ウィルス種

必殺技はメタルキャスト

ドルモンがX抗体によりデクスゼヴォリユーションした姿、デジコアを食べないと体が崩れてしまう」

ドルモン「トコモン…」

日花莉「あれはX抗体を持っているうえに成熟期…トコモンじゃ敵わない」

ドルモン「あいつは聖なる光に弱いんだ…」

日花莉「それなら」

存救「俺達の」

洸「得意分野だぜ…！」

日花莉・洸「リロード」

そういうと、プロットモン、クダモン、コロナモンが出てきた

ドルモン「あれ？存救は持ってないの？」

存救「ははは…ごめん」

ドルモン「…じゃあ、とりあえず俺が力をこめて打つから、俺の攻撃に、聖なる力をのつけて」

プロットモン・クダモン・コロナモン「OK」

ドルモン『メタルキャノン』

プロットモン『ホーリーシユート』

コロナモン『コロナフレイム』

クダモン『ホーリーショット』

デクスドルガモン「ぎゃあああああああああああああ」

トンペイ「た、助かった…」

チータ「ふ、ふん…お前らがいなくてもあんな奴俺達だけでやっつけれたんだからな」

そういつてチータはさっていった

トンペイ「…ごめんな…あいつは素直じゃないだけで内心感謝してるんだ…ありがとう」

日花莉「じゃあ、グレア隊長に報告するついでに連衡、連衡」

トンペイ「じ、自分で行くよ」

日花莉「そう？じゃあ、グレア隊長のお説教タイムがんばってね」

トンペイ「あ、ああ」

洸「俺達も後から行くよ」

トンペイ「じゃあ、また後で」

トコモンX「ドルモン、みんな凄い凄い」

ドルモン「へへ…」

洗「じゃあ帰るか」

存救「そうだね」

コロナモン「疲れた…」

プロットモン「私も」

こうして、日花莉達も帰ったのだった

7話 イグドラシルの実験体：パラレルワールドから来たデジモン（後書き）

みづ「なんか今回雑談の方が多かった」

日花莉「自分で書いて…」

洸「さりげなく中の人ネタも入ってたしな」

みづ「いやあ、あれはタイキと同じ声ってアピールしたかっただけ」

存救「あっそ…」

みづ「今回はアングラトンネルに向かった小夜たちのお話だよ」

日花莉「小夜たち…無事だといいいんだけど」

トコモンX「ガブモン…」

一同「次回もお楽しみに」

## 8話 アグモンの戦友登場(前書き)

小夜「戦友って一緒に戦った友達ってこと？」

みづ「そうだよ」

里途夢「あ、私分かった！！」

みづ「まだ言わないでね？」

里途夢「分かってるって」

星夜「じゃあ」

一同「本編スタート」

## 8話 アゲモンの戦友登場

小夜「うう…アングラトンネルは、じめじめトトトして…」

里途夢「本当、早く調べて帰ろう」

星夜「……ここは異常ないからもっと奥へ行ってみよう」

小夜・里途夢「はあい」

ララモン「なんか臭い…」

ガオモンは地面を見た

ガオモン「これは…ヘドロですね」

ポーンチェスモン黒「奥になにかあるな…これは」

???「うう…」

ガオモン「あれは!！」

星夜「ガブモン？」

小夜「おかしいな…本来アングラトンネルにはガブモンは生息してないはずなんだけどな」

里途夢「このガブモン…少し様子がおかしい…もしかしてずっとここにいたから臭いにやられたのかも!！」

星夜「ガブモンはほかのデジモンより臭覚が鋭いからこの場所はガブモンにとって毒だ!!」

小夜「…!？」

????「ぐおおおおおおお」

星夜「レアモンだ!!」

里途夢「この異常な臭さはあいつの仕業ね!!」

ガオモン「ぐ…」

星夜「まずい!!ガオモンはガブモンと同じくらいに臭覚が優れているんだ!!」

ルナモン「小夜ちゃん!!ここは私たちがなんとかしましょう」

小夜「うん!!みんなは早くガブモンとガオモンを連れて逃げて!!」

星夜「だが相手は成熟期だぞ!!」

小夜「私に考えがあるの…お願い!!早く逃げて!!」

里途夢「分かったわ」

星夜「…無茶はするなよ…」

小夜「分かつてる」

そして、星夜と存救はガオモンとガブモンを連れて逃げた

小夜『ロップモン、ルナモン、ララモン、リアライズ！』

ロップモン「行くよ！！」

ルナモン「行くわよ！！小夜ちゃん」

ララモン「私も、行きます」

ルナモン『ロップイヤーリップル』

ララモン『ナッツシユート』

ロップモン『ブレイジングアイス』

ルナモンが耳をクルクル回して発生させたシャボンの渦にララモンのナッツシユートを巻き込み、さらにそれをロップモンのブレイジングアイスで凍らせそれをぶつけた  
おそらく威力は成熟期並みだろう

ルナモン・ララモン・ロップモン『リップルナッツアイス』

レアモン「ぐおおおおおおおおおおおおおお」

バタン

小夜「やったあ」

ルナモン「やったね、小夜ちゃん!!」

ロップモン「とっさに思いついた技がこうも上手くいくとはね」

ララモン（解説、間違ってるよ…ナレーションさん）

失礼、シャボンの渦にナッツシユートを巻き込み、更にはレアモンを巻き込んでナッツシユートで威力が上がっているのでかなり効いて、さらにそれを凍らせたということ

で、ただでさえ、レアモンには清められた水が苦手なので一発で倒せたのだ

ララモン（ルナモンは綺麗な水を操るからね）

ルナモン「さつきからなにぶつぶついつてるの?」

ララモン「なんでもないわ」

ルナモン「?」

小夜「さ、帰りましょ…多分、レアモンはウィルスに犯されてただけだから溶ければ正気に戻るわ」

そう、ルナモンの水は聖なる月の力が宿っているから浄化作用もあるのだ

こうして、小夜たちは帰ったとさ

終わり

## 8話 アグモンの戦友登場（後書き）

みづ「やっと…終わった」

小夜「ところで微妙に小説のタイトル変わってない？」

みづ「うん、<sup>エックス</sup>Xが付いたよ」

小夜「やっぱりXデジモンが続々に出てきてるから？」

みづ「ピンポーン」

小夜「じゃあ次回予告」

みづ「次回のお話しは、ガブモンも助けたのに記憶が戻らない!？」

小夜「え!？」

日花莉「どういづこと!？」

一同「次回も、お楽しみにね」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6730u/>

---

デジモンストーリーライトファンクとナイトクロウの絆X

2011年10月28日04時30分発行